

夢窓幼稚園通信第24号

2016年 6月30日

最近 よく「木」のことを思いめぐらしています。年明から、今年のなつまつりは、「木」にちなんだことをテーマにしたいと、漠然と思っていたのです。

京都で育った木をいただいで建て替えてに向けて、いろいろと考えてきたので、木が私の方に近づいてきてくれたのかもしれません。

先日も、園庭のさくらの根っこが土の中で「いったいどこまで伸びているのか想像して、その辺りを歩いてみたら（実際どこに根があるのか ちっとも分からないのですが）、何だか地面が違って感じられました。

幹をたたいて、「いつまでも長生きて」しっかり立ち続けて、気持ちのいい陰を作ってくれ！」と、お願いもしました。

枝をさすって、たくさんの緑葉をつけて風に呼応する見事さを、どうしても讃えたくて仕方なくて……

まあ、とにかく あれやこれやを想って過しています。

人が 地水火風の働きに触れ、その中で生きているように、木もそれらをしっかり受けとめて生きています。

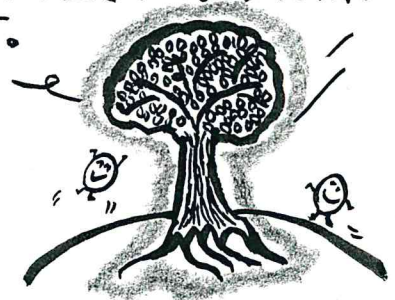
人のあちこち動くのとは違い、大地に根を張って生きている分、周囲のそれらの力の影響をより深く受け、無言ながら 存在全体でやりとりをしているのかもしれません。

大地と天空の間で、より確かに立っているのでしょう。

木の方が 私たちより 素直で、我慢強く、与えられたものを受け入れ、周囲のものに帰依して、おひさまと地面の間を生きているに違いありません。

皆さん、いかがでしょうか。

そんな木々に憧れを感じることはありませんか!?



晴れ間に木陰に身を寄せ、ただただ上を眺めていると、見事な景色に思わず深呼吸です。

葉っぱの隙き間から空が見えます。

おひさまの光がぴーんと射し込みます。

風が木の中を流れます。

時には雨音を響かせたのしませてくれます！

木がそこにあることで生まれる空間や、その空間に生じる様々な営みに、不思議な「時間」を感じます。空間の中に響いている時間をです。

雨音と共に揺れる葉っぱたちを通して、また葉と葉の重なりの中の小さな空の青さによって、懐しくあの時の一瞬が甦ります。

根っこから幹を通り抜け枝の先へと流れる樹液を想うと、リズムをとって生命の力強さを刻みつける時の流れを感じます。

風と共に作る木々から漂う香りが、遠い過去と未来への静かで、おおらかな励ましを届けてくれます。

大地と天空にはさまれた空間は、同時に、時間が端々しく湧き出る場であることを、木々が教えてくれました。

新しい 7月がやってきます。

私たちは、今この土地と大空の間で、様々な営みを通して「時」を生き、時をつむいでいるのでしょう。

木々と共に 7月を生きたいと思います。
なつのおまつりを生きたいと思います。

皆で、よるこびの時を共有できることを願っています。

園長 升光 泰雄